

(様式1)

大学名	東京外国語大学	学問分野	人文科学
専攻等名	地域文化研究科地域文化専攻		
拠点のプログラム名称	言語運用を基盤とする言語情報学拠点		
拠点リーダ-氏名	川口裕司	所属部局・職	地域文化研究科・教授
プログラムの概要	情報工学を基盤として言語運用データに基づき言語学と言語教育学を有機的に統合し、言語情報学(Linguistic Informatics)という新たな学問領域を創成する。		
拠点形成の目的・必要性	<p>従来から言語学と情報工学は言語教育に多大な影響を与えてきた。しかしながらこれまで三学問分野の協働によって新たな学問的成果をあげてきたとは必ずしも言えない。</p> <p>本拠点形成ではこうした学問的必要性に応えるべく、情報工学の基盤の上になら、多言語に関する言語運用データを分析し、その成果を言語教育の中に応用することで言語学と言語教育学を有機的に統合する。本拠点形成ではこの新たな統合的学問領域を言語情報学 (Linguistic Informatics) と呼ぶ。この言語情報学の創出により、外国語教育の高度化、先端化、効率化が実現される。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>言語情報学班：17言語によるTUF言語モジュールを開発し、Web上に公開する。また第二言語習得理論に基づく談話分析を行う。</p> <p>言語学班：コーパス言語学の成果を活用しつつ多言語コーパスを構築し、対照言語分析を行う。</p> <p>言語教育学班：TUF言語モジュールにおける多言語汎用シラバスの可能性を研究し、独自の言語能力評価モデルの確立を目指す。</p> <p>情報工学班：e-learning環境の研究を行いつつ、形態素解析やコーパス解析のためのツールを開発する。</p>		
教育実施計画	<p>本拠点形成では、言語学、言語教育学、情報工学に関する専門知識を有し、高度な言語運用能力を駆使しながら、外国語教育の高度化と効率化に貢献することができる新しいタイプの言語教育者を養成する。</p> <p>具体的には、大学院生がTUF言語モジュールの開発を通して、音声学・統語論・語彙論などの言語理論を熟知し、同時にシラバス分析や言語教育理論を身につける。また海外においてモジュール開発のための談話素材を収集し、それを解析ツールを用いて分析し、多言語の談話コーパスを構築する。</p>		

言語運用を基盤とする言語情報学拠点

拠点形成の目的・必要性

言語情報学の創成

言語学, 言語教育学, 情報工学の統合

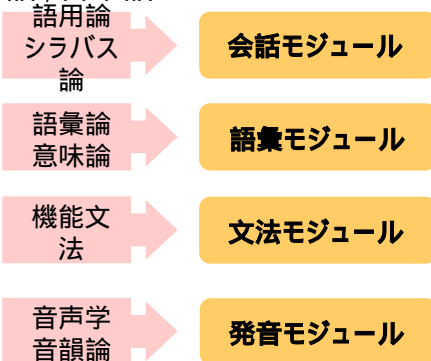
成果としての外国語教育における 三つの革新

1. 高度化
言語学の成果(言語理論、コーパス言語学)
2. 先端化
情報工学の成果(IT技術、マルチメディア)
3. 効率化
言語教育学の成果
(第二言語習得、機能シラバス)

研究拠点形成実施計画

多言語モジュール

英語, ドイツ語, フランス語, スペイン語, ポルトガル語, ロシア語, 中国語, 朝鮮語, モンゴル語, インドネシア語, フィリピン語, ラオス語, カンボジア語, ベトナム語, アラビア語, トルコ語, 日本語



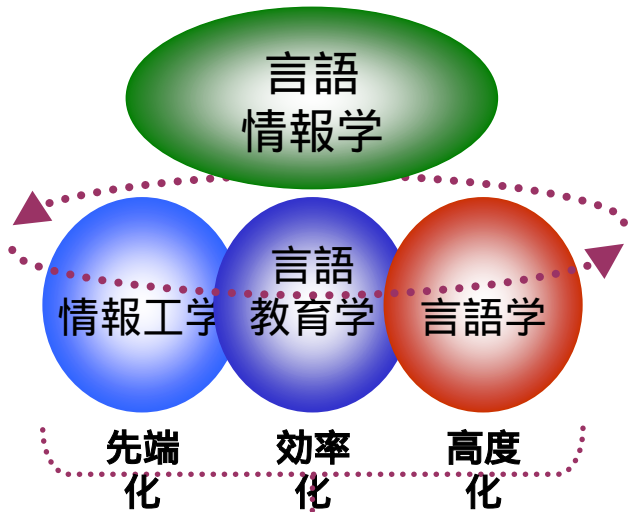
e-learning system

教育実施計画

新しい言語教育者の育成

1. 言語理論の熟知
外国語教育の高度化

新領域の創



TUFS言語モジュール
発音、会話、文法、語彙な
どの
モジュール

外国語教育の革新



2. 言語教育理論の実践
外国語教育の効率化
3. 情報工学の知識
外国語教育の先端化